

プロジェクト課題活動実績

課題名：法人・担い手連携システム“YUI”の確立による地域農業の維持・発展

美祢農林事務所農業部 チーム員：◎白石一剛、坂井崇人、村上千智、○高林正典、○河村剛英、斉藤さつき、岩本淳子、原田孝太

<活動事例の要旨>

集落営農法人と地域の担い手が連携し、機械・労力を補完し新規作付・拡大が円滑に行える体制“YUI”のモデルが確立した。

宇部・山陽小野田地域は、新規設立1法人、既存法人2法人を集落営農法人に位置づけ、計16法人の新規就業者受入れや女性組合員の活動について現状調査を行いパターン別に今後の支援方向を整理した。

1 普及活動の課題・目標

宇部・山陽小野田地区では、現在16の集落営農法人が設立されており、小麦・大豆中心に機械・オペレータ連携システム“YUI”の確立を目指している。

一方、高齢化等による農家のリタイアによる農地の放出、集落営農法人経営の継続性の課題が顕在化している。

このため、集落営農法人と担い手農家を中心に“YUI”システムの確立及び発展構想について検討するとともに“YUI”の構成法人として新規集落営農法人の設立並びに将来ビジョンの策定・女性の組合員の能力発揮を通じた法人経営の体質強化を図る。

2 普及活動の内容

- ①山陽地区法人・担い手連携協議会を基盤とした機械・労力補完体制の拡充
- ②集落営農法人設立の加速化（重点推進地区での設立誘導）
- ③人材養成機能の検討
- ④BSC等を活用した新たな経営計画の策定
- ⑤新規就業者受入体制の整備、女性組合員の能力発揮

3 普及活動の成果

- ①山陽地区法人・担い手連携協議会を基盤とした機械・労力補完体制の拡充
小麦・大豆作において、播種前調整から圃場確認（技術対策）機械・オペ調整まで一体的な連携システムが定着した。しかしながら、委託法人が受託側に移行するなど受託面積は減少で収束した。

- ②集落営農法人設立の加速化（重点推進地区での設立誘導）

上厚東地区（5集落）が（農）ふるさと吉見を設立（H28年1月）。

集落と結びつきの強い既存法人2法人を関係機関との協議・合意を得て集落営農法人として位置づけた。

また、鴨庄・杵山田地区は発起人会の設置、有帆地区は発起人選定に向けた協議が進行中であり、次年度の法人化に向けた検討を継続支援する。

③人材養成機能の検討

集落営農法人の常時雇用者確保への要望は現段階では低い。

企業的園芸法人の人材養成における実態を意見交換会を通じて情報収集できた。

また、(有)グリーンハウスにおける、制度研修実施前の事前研修の受け入れ等、発展構想における連携の可能性が示唆された。

④BSC等を活用した新たな経営計画の策定

創立10周年を迎える(農)石束・不動寺原を対象に、経営戦略の策定を提案しアンケート調査による組合員の意向確認と結果を基に、集落別意見交換を開催し法人の課題を整理した。

昨年度、将来ビジョンを作成した(農)七日町営農組合は、役員外の評価検討委員を設置し法人内部でPDCAサイクルを実践するしくみができた。

⑤新規就業者受入体制の整備、女性組合員の能力発揮

法人ごとの担い手・女性に関する対面調査を随時実施(10/30~1/28)し、各法人の現状と意向について把握できた。

特に、家族組合制誘導による女性組合員の確保6法人、女性部組織している法人の現況確認(4法人)を行ったが高齢化により法人事業に参画できる女性が限定され多忙な状況であった。

また、農大、公社への研修受け入れ情報提供((農)ファーム17、(株)あぐりんく、(株)未来山口)、新規就農者と法人連携((農)市小野、(農)和の郷)、家族組合員誘導による法人内の担い手確保((農)宮尾営農組合、(農)あいのう木田)、(農)ひろせ他)のタイプ別に今後の支援方策を整理した。

4 今後の普及活動に向けて

山陽地区の“YUI”システムは、小麦の品質向上や他品目への応用を視点をブラッシュアップを図る。また、このモデルを参考に宇部地区の実情に応じたシステムの波及に着手する。

集落営農法人については、家族組合員化の意向のある法人を中心に将来ビジョンの策定を拡充するとともに、新規法人設立に向けて、地域の合意形成の段階別に進行管理を行う。

さらに、当地域の集落営農法人連合体の必要性や望ましい姿について、関係機関や集落営農法人等との意見交換を通じて広域マネジメントの在り方を整理する。